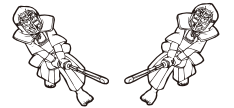




「剣風」
 題字: 細川武敏(41期) 筆
 O B 会 報 第 17 号
 平成21年12月1日発行
 制作: c b 鼓 囃 子



(戦後初代顧問)
荒木豊治先生ご逝去



荒木豊治先生
 (昭30年、42年顧問)
 平成二十一年十月二十八日(逝去)
 享年九十歳

「亡き荒木先生を偲んで」

(56期) 阿部祐之

昨年十月、元上田松尾高校剣道班戦後初代顧問の荒木豊治先生がご逝去されました。平成八年には横谷先生が、この度は荒木先生が、当時の顧問の先生がお二人とも他界され、高校時代に直接ご指導を頂いた者として大変な悲しささみしさを禁じ得ません。剣道班の指導に中心的に関わって下さったのは横谷先生でしたが、荒木先生には勝負に関する心構えを剣道に限らず広範な立場から内面的なご指導を頂きました。時には我々の悩みや気持ちも真剣に丁寧聞いて頂いたこともありました。

当時、荒木先生は国語の教科担任でもありました。ユニークでユーモアに富んだ授業であり、生徒一人一人を大事に受け止めて下さいました。

こんなことがありました。早朝練習で疲れて、ついうとうとうとしている野球部に「舟長！舟長！」と荒木先生か

若い世代の皆さんには、正月のOB会で例年途中から、しかもほろ酔い姿で登場し(御自身の同窓会と日が重なっていたためなのですが)壇上で雑学話を長々と演じ、ご機嫌になっておられる姿が、思い出としては一番心に残っているのではないのでしょうか。御身体も小柄で名伯楽の雰囲気漂い、剣道のイメージとは結びつかない感じを受

ける方もいらつしやるかと思えます。しかしどうして、先生が顧問をされた時代の剣道班の戦績は男子インターハイ出場を筆頭に新人県団体優勝が二回、女子北信越、個人も県覇者複数名……とまさに黄金時代復活の輝かしいものでありました。

大監督であった羽田先生の異動に伴い、班長であった私の最初かつ最大の仕事「新顧問選任」でした。当時の慣例として顧問は生徒がお願いするという事になっていたので。剣道専門の先生がいらつしやなかったため、とりあえず若い先生からお願ひに上がったのですが、その熱の無き気持ちの無さに半ばあきらめていた折り、これが最後かと生物準備室を訪れたのでした。「この先生だ」と、内定していた

野球部長の話を断って頂き、我が剣道班にお迎えした日の事は忘れません。日々の班活で技術的に何か教わったという事はよく覚えてはいませんが、大会前に精神面の話をされたり、生物準備室に呼び出され厳しく怒られたり、文頭のOB会の姿とは全く異なる、闘将の一面も持たれていた先生でした。また、先生は引退後も、ずっと剣道班の思い出を抱いていらつしやいました。

私が「今年の県大会の結果は○○でしたよ」「女子が遂に優勝です！」等と報告する度に「そいつは良かった」と言われた後、毎回必ず「○○の時は、どうして勝てなかったかなあ。勝たせてやりたかった」と二十年以上も昔の話も熱く語り続けるのでした。電話口でもその圧倒的な気迫が伝わって驚かされたものです。

思い出は尽きません。長谷川良一先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

「気負うことなく」

(61期) 羽田敏幸



六月の総会において会長を仰せつかりました。非力ではありますが役員・会員の皆さんのご協力のもと精一杯務めたいと思っております。よろしくご支援の程お願い申し上げます。

OB会も平成五年七月に発足してから十六年が過ぎました。この間、大石・桑沢・阿部会長のもとに役員の献身的な努力により、毎年の総会・懇親会の開催、会報「剣風」の発行、750余名(松尾・上田高校OB約550名)に及び会員名簿の整理保存、そして現役生への後援活動として大会補助、部内選手権である宮下杯の開催等が定着し今日に至っております。これらの活動は、決して人目を引く派手なものではありませんが、会則の「会員の親睦を図り、剣道班の活動を後援する」に基づき地味で目立たないものであります。

しかし、これだけの地道な活動が十五年以上継続しているという事は、県下の高校運動部



OB会の中でも屈指の活動実績と自負しているのではないかと思います。このような活動を維持してこれたのも、母校剣道班を愛する会員皆さんのご理解とご支援があったからこそであります。

昭和三十年に数名の同好の士によって剣道クラブ(同好会)が再建されるや、輝かしい歴史と実績を誇る上中時代の先輩達による厳しく熱心な指導により実力をつけ、早くも三十五年には団体・個人でインターハイ出場の栄冠を手にし、これを機に上中の先輩による後援活動が始まりました。

四十年には後援会として発足し、以後二十八年間、物心両面から現役生への活動支援が行われてきました。そして平成五年に約半年間の準備期間の後、後援会を発展的に改組し現在のOB会が誕生しました。

このような経過を振り返ってみますと、上中時代のOB(旧制中学)との関係の深さが続いている極めて稀有なOB会であります。このような歴史を大切に、気負うことなく、息の長い活動をしていこうではありませんか。



長谷川良一先生
 (昭58年、平22年顧問)
 平成二十一年十月十六日(逝去)
 享年八十二歳

「長谷川良一先生を偲んで」

(82期) 近藤敏朗

末筆ながら、荒木豊治先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます



活動報告

幹事長 (72期) 竹内茂直

この度藤先輩の後任として幹事長を仰せつかりました竹内です。OB会活動が引き続き盛上っております。皆さんのご指導ご支援をよろしくお祈り致します。

さて二十一年度定例総会が去る六月二十七日にOB会員二十九名の出席のもと「祥園」で開催されました。例年通りの議事に加え、今年役員改選年にあたって羽田新会長以下新役員が選任されました。さらに総会に続いての懇親会では現役時代の思い出話にも花が咲き一同交を温めるひとときを過ごしました。また総会に先立っての宮下杯争奪戦・稽古会では今年も現役班員・OB剣士の熱のこもった立会いを見る事ができました。OBの皆さんも、今も現役バリバリで剣道に精進されている方、地域で子供たちの指導に当たっている方、定年を迎えてまた稽古を再開された方等様々で、私も年代を超えて共に汗を流し楽しめる剣道の素晴らしさを皆さんの熱気のなかで改めて感じ、健康診断の都度運動不足を指摘されるのが身を省みてまた防具を着けてみたい思いを抱いた次第です。

最後に運動部OB会連合会についてですが、二月二十一日「ささや」にて定期総会が開催されました。二十年度は当班が幹事でしたが、七十八名(内当班参加十三名)の盛会となりました。総会に先立ち当班六十四期の宮坂信之氏より「健康に老いるために」という

演題でご講演をいただきましたが、現代版養生訓といった大変興味深い内容で、好評のうち、次期幹事の水泳班に引き続きができましたことをご報告致します。



「新役員就任の挨拶」副会長 (71期) 柳沢 収

「新役員就任の挨拶」

副会長 (71期) 柳沢 収

六月下旬の土曜日、上田高校第二体育館において、「宮下杯」に続き、現役・OB・OGによる合同稽古会が例年どおり行なわれました。OB・OGの稽古参加者は二十一名、見学者は十三名でした。大勢のご参加・ご見学をいただき、ありがとうございます。担当といたしましては、次回における更なるご参加・ご見学を心から楽しみにお待ちしております。

(監査) 76期 塚田 量

この度、監査としてOB会に携わることになりました塚田です。監査の責務が全うできますよう、努力したいと思います。よろしくお願いいたします。

(監査) 84期 坂戸由恵

このたび、監査をさせていただくことになりました。よろしくお祈りいたします。十二年ぶりに稽古を再開しました。

昔

明治三十九年

撃剣部記事

●聯合運動會 十月十五十六兩日長野縣師範學校内に第五回信濃中等學校聯合運動會は開かれぬ吾々こそこの晴の舞臺に於て縣下第一の名譽を得めとの「アンビション」をもて第一等四十八名其の面々盛々も貫く勇氣あり鬼をも走らす剛毅あり而して審判者には警視總監士得能四郎先生表審判の勞を取られ裏審判とては我教士小野田伊織先生其の勞を取られたり。

勝 富山賢三(上中)
上山貞雄(飯田)
富山氏は我校新進の若武者如何とためらふに名にきこえたる敵の荒武者といへいかでおくすべき雷の如き勢にドット切り込み敵の胴は異二つ續いて小手切り落し勇ましく歸る

勝 翠川國平(上中)
矢崎愛藏(職中)

今

平成二十一年

男子は新人戦、インターハイ選とも準優勝。好成績と言ってもよいと思えるもの、やはりインターハイへの壁は厚く高く、険しい。ほぼ四半世紀男子の全国大会への道は閉ざされている。氣力を壁を乗り越えて、全国への道を切り開きたい。女子は145回大会では予選リーグを2位という結果で準決勝では昨年度のインターハイ出場メンバーを3人擁する長型と対戦することになった。気魄という言葉がまさに当てるまる死闘を演じ、見事に逆転勝ち。未だに心に残る試合である。

しかし、女子も全国から遠ざかること4年。男女アベック出場の悲願達成を胸に精進して参ります。(顧問 神津77期)



- 平成20年度北信越高等学校剣道大会 (平成21年2月7日~8日)
男子団体 1勝1敗(予選リーグ)
- 平成21年度戦績
三条杯剣道大会 (平成21年4月26日)
男子団体 1回戦
女子団体 2回戦
- 第5回謙信公杯争奪高等学校剣道大会 (平成21年5月4日)
男子団体決勝トーナメント2回戦
女子団体予選リーグ
- 第145回東信高等学校総合体育大会 (平成21年5月16日~17日)
男子個人 下形将央 4位
男子団体 準優勝
女子個人 三井 祐 6位
女子団体 優勝
- 平成21年度長野県高等学校総合体育大会 (平成21年6月6日~7日)
男子個人 下形将央 5位
男子団体 準優勝
女子個人 三井 祐 1回戦
女子団体 ベスト8
- 平成21年度北信越高等学校剣道大会 (平成21年6月20日~21日)
男子個人 下形将央 1回戦
男子団体 予選リーグ
- 剣道班OB会第6回宮下杯 (平成21年6月27日)
男子優勝 下形将央 準優勝 福澤 敬
女子優勝 滝沢美保 準優勝 酒井 諒子
- 平成21年度東信高等学校剣道選手権 (平成21年7月19日)
石田大地 準優勝
大木孝弘 優勝
大井 祐 優勝
滝沢美保 準優勝
- 平成21年度上小高等学校剣道リーグ (平成21年7月26日)
男子優勝
女子優勝
- 第2回上毛旗剣道大会
男子予選リーグ
女子ベスト8
- 第24回若龍旗争奪剣道大会 (平成21年8月23日)
男子 ベスト16
女子 2回戦
- 第3回真田幸村杯剣道大会 (平成21年9月13日)
女子 優勝・男子 B3位
- 第35回東信青少年剣道大会 (平成21年9月20日)
男子 準優勝・女子 準優勝
- 第146回東信高等学校総合体育大会 (平成21年10月24日~25日)
男子個人 大木孝弘 3位
下形将央 4位
男子団体 3位
女子個人 三井 祐 優勝
朝倉 慶 4位
滝沢美保 8位
女子団体 3位
- 第17回諏訪湖大会 (平成21年11月8日)
男子団体 ベスト8 大木孝弘 最優秀選手
女子団体 1回戦
- 平成21年度長野県高等学校新人体育大会 (平成21年11月14日~15日)
男子個人 大木孝弘・下形将央 ベスト8
男子団体 3位
女子個人 三井 祐 ベスト8
朝倉 慶 1回戦
滝沢美保 2回戦
女子団体 優勝



●吉池今朝儀(上中)
中澤 權造(松中)
我校の御大将山本氏に向ふものは誰れ、黒革威に身を固めたる軽捷の勇將長中の近藤氏なり敵も味方も劣らずの早技山本氏見事敵の小手切り落したるも山本氏の運や悪しかりけん敵の技や勝りけん二度面取られて無念の涙飲んで戦場を退きぬ

●山本 亮助(上中)
近藤興次郎(長中)
我々の御大将山本氏に、敵は松中屈指の中澤氏能き敵ごさんなれどかけ合せかけ離れ戦ふ中見事敵の小手ぬきたりしが敵の切り込み面うけがたく復も面を切られてあたら番は地に落ちぬ、

●櫻井群三郎(大中)
直憲(上中)
敵は大中の御大将櫻井氏味方は我校に其人ありぞ知られたる倉澤氏大音呼號、進退の敏捷快刀振ひ

●山本 亮助(上中)
近藤興次郎(長中)
我々の御大将山本氏に、敵は松中屈指の中澤氏能き敵ごさんなれどかけ合せかけ離れ戦ふ中見事敵の小手ぬきたりしが敵の切り込み面うけがたく復も面を切られてあたら番は地に落ちぬ、

戦ふ様勇まごも勇し見事横面も成功しけり敵も中々に暇ひが其力や足らざりけん倉澤氏血潮えたり、秋水拭ひつ、凱旋す

三本勝負は終りつげ次に最優勝者を定めぬが爲め一本勝負三本拔を行ひたるに優勝者六名を出せぬ即ち松中二人長中二人野中一人上中山本氏にして此の中最優勝者を出すこそ實に見物なり嗚呼最優勝者松中か？長中はた野澤中か？否名譽ある縣下第一の名は我校山本氏に歸したり

前後飯回或は松中或は長中或は野中入り代り立ち代り山本氏に對したれども山本氏精力絶倫最後迄力盡さず音切り伏せたり、此れ氏の名譽は云ふに及ばず我校の名譽小野田先生の名譽吾等選手其の擔ふべき名譽の力實に偉大なりと云ふ可し然りと雖も亦小野田先生が奮闘其の宜しきを得たるの功といはざるを得ず

翠川、倉澤、富山三氏は師範校より銀牌各一箇を授與せられ山本氏は日本武徳會長野支部より金牌一箇信濃体育會より銀牌一箇信濃毎日新聞社より漢和大辞林一冊長野新聞社より新聞一ヶ月贈らる(終り) K Y 生

平成21・22年度新・役員

顧問	39期	萩原 秀治
会長	54期	桑沢 俊猛
副会長	56期	阿部 祐之
幹事長	61期	羽田 敏幸
副幹事長	67期	若林 健
幹事	65期	工藤 武和
幹事	67期	柳沢 茂直
幹事	71期	竹内 隆信
幹事	72期	渡邊 隆信
幹事	75期	佐藤 博
幹事	76期	近藤 敏明
幹事	80期	正村 聖美
幹事	82期	柳澤 哲
幹事	86期	山崎 完爾
幹事	77期	塚田 量
幹事	76期	坂戸 由恵
幹事	84期	神津 純
幹事	77期	半田 淳子

(退任役員)

63期 工藤 泉・76期 仁木邦彦
 参与 小宮山勝人
 (退任役員)
 今までありがとうございました

OB座談会「農業経営編」
ブドウ 葡萄と武道

【司会 工藤】

今回は、葡萄栽培を手掛けて、農業に長年従事している、飯塚芳幸さん(66期)と渡邊隆信さん(75期)の座談会を催す事になりました。



会場には、お二人の持ってきた丹精込めて作った作品が並ぶ(写真) — 安芸タイン、ルーベルマスカット、オリエンタルスター、シヤインマスカット、ピオーネ、アウローラ

巨峰のパウンドケーキ、ぶどうのヨードグルトソース『浅間の雫』(渡邊)

【司会】
 どのように葡萄栽培に着手されたのですか。

【飯塚】

昭和40年頃始めた。農協を辞めて3年後くらいに、技術者が欲しいと言われたが、断った。農業の指導者をするには、土に腰を下ろして同じ立場で親身になって解決するのが本当の指導者だと思った。葡萄の栽培は、10年後のビジョンを明確にして進んでいった。25年前に、自分の葡萄を評価して欲しくて、持込みをした時に認められ、その時の縁で、現在、高島屋、明治屋、紀ノ国屋などに出荷している。

【渡邊】

昭和31年に父(竹内和英さん)が、『東御巨峰』の元になった原木で露地栽培を始めた。

約30年前、フイリピンへ葡萄の技術指導に10年間行った。その後14年間会社に勤めていたが、「人と同じことはやりたくない。自分のやりたい事をやりたい」との想いから、『秀果園』を継いだ。葡萄はもちろんのこと、自社ブランドの製品も手掛けている。

【司会】

企業の経営者が常に心がけなければいけない姿勢ですね。さて、葡萄栽培での苦労された点はどのようなことですか。

【飯塚】

葡萄の新種を作るには、交配、偶然、化学的処理の3つの条件のどれかに当てはまらないとできない。

16年前に5人の葡萄農家で挑戦した新種は、3年間、割れて腐ったり、水腐れになって大変だった。けれど、やがて、努力が身を結び、流通のにつけられるまでになった。価値を落とさないようにするために、タミー防止の手段となるマークを張ったり、品質を落とさないよう作る努力をしてきた。

【渡邊】

価値を認めてくれるルートでしっかりと売るようにしないと後が大変です。部屋の形を見れば生産者がわかりますよね。

【飯塚】

葡萄は作品だから、その人の人格なども表れる。人格の評価にもなる。自分で今回の作品はいいできだと思っ、他の人から見ればそうでもないかもしれない。自己評価をしてもいいから出品したら、ピオーネで4回県知事賞をいただいた。

【渡邊】

あの賞は、貢献度も評価の対象になるから、先輩が先見の目をもって進まれている事も評価されたんじゃないかと思えます。

【飯塚】

そして、『土』も大切。土の中にある養分は毛細根から吸収される。人間が食べ物をお口から入れて毛根と同じ毛がたくさんある小腸で吸収するのと同じ。生産者は、葡萄のお医者、育成者にならないといけない。

【渡邊】

土や木と対話して、環境を整えて育てていきたいですね。

【司会】

経営に関してはどのようにお考えですか。

【飯塚】

攻めなければだめ、受身になっていたら負ける。剣道でいう後の先だと2割にしかならない。先の先だと8割で勝てると思う。

【渡邊】

これからの経営戦略は難しいですね。農産物全体の流通もおかしくなっているし、農業を継ぐ人が少なくなっている。その中では、農業のプロが育たなくなってしまう。

【司会】

剣道をやったことで現在の仕事にどのような影響がありましたか。

【飯塚】

私の3年間の剣道の形は、猪突猛進の剣道だったと思う。それは、やはり仕事に生かされた。自分の信じた道を迷わず、猪突猛進で進むことで、今に繋がったと思う。また、先輩方との稽古の中で『負けるものか』という気持ちで臨んでいたもので、根性が身についたと思う。

【渡邊】

先輩方からの指導は、きびしいながらも心に残るものがありました。剣道の中で『攻め』は大事。それも継続してやらないとだめ。先日の大会で、娘や後輩に、「4分間攻めきれ」とアドバイスしました。仕事の中に、常に新しい『攻め』が必要だと思う。

【司会】

これからの抱負はいかがでしょうか。

【飯塚】

『依正不二』(えしょうふに)。正報なくば依報なし。主体が変われば周りも変わる。自分の努力がいい縁(人)に繋がっていく。

【渡邊】

自分のためだけでなく、日本の葡萄のために努力したい。

【秀果園】

『秀果園』という自社のブランドを育てていき、おいしい安全な物を作っていきたい。農業に魅力を感じてもらえるように人材育成もしたい。

【司会】

ありがとうございました。お二人には今後ますますお元気で武道の心が表れた葡萄を世に送り出されることを祈念申し上げ本日の対談を終了させていただきます。

【出席者】



飯塚芳幸(66期)
 財団法人長野県果樹研究会
 会ラドウ部会長
 株式会社マルタ取締役



工藤武和(司会)(67期)
 株式会社
 ジェー・ビー・イー
 代表取締役



渡邊隆信(75期)
 秀果園代表



ものづくりのプロ集団
 話しは尽きる事がない

(編集) 正村聖美(80期・編集委員)

「半田孝淳天台座主が名誉市民に」

※上田市議会
 11月1日
 市議会にて
 半田孝淳天台座主が
 名誉市民に
 選出されたこと
 について、
 市議会が
 決議した
 ことについて
 報告する



半田孝淳
 天台宗務所
 写真提供

上田市初の名誉市民の称号を半田孝淳天台座主に贈る議案が、上田市議会において全会一致で可決しました。半田天台座主(剣道班OB 34期上中卒)は上田市別所温泉に生まれ、別所常楽寺の住職などを務められ、平成19年に比叡山延暦寺の天台座主に就任されました。世界の恒久平和の実現に向けた活動を積極的に推進するとともに、地域においても保護司や自治会長、保育園長として尽力せられ、地域と上田市の発展に貢献されたこと、市民の模範となるものと、市議会は、市議会の掲げられた「剣友」の字を揮毫いただいたとあります。(前頁写真)

通信欄

通信欄 (六月OB会出欠書より抜粋)

41期 中村 好和

今の時代の医者不足も東北も御同様、もう年齢ですが責任上なかなかこの土地から離れなくなっています。皆さんのご健闘を祈ります。

62期 飛田 武昭

岐阜県剣道連盟の理事長をされた方が、上田高校の大先輩であることがわかりました。その人は、故、町田貢先生です。同窓会名簿で確認したら、23期卒(旧制上田中学)で、生まれは更埴市八幡で武専を卒業されたようです。

64期 宮坂 信之

残念ながら所用と重なり、欠席します。六月号の「剣道時代」で対談をしています。また、六月三日のNHK「生活ほっとモーニング」に出演予定です。

64期 宮坂 昌之

あいにく、日程が重なり出席できません。五月の京都大会での立会いは引分けでした。八月末の世界剣道選手権大会(ブラジル)に役員として行きます。

73期 山浦 一雄

勤めを辞め、ゆつくり過ごしています。ぎっくり腰の様子を見ながら竹刀を握りたいと思います。暇な人は遊びに来て下さい。

76期 松井 敦

高校時代のように軽快に体を動かしたいと思うのですが、年々動かない体を知りながらショックです。今年の目標はメタボ解消です。

86期 柳澤 英子

恩師長谷川先生が亡くなられ、とても寂しい思いをしています。現在、四才、二才の息子の育児に追われる毎日です。今年こそ参加を！と毎回思うのですが、まだまだ自分の時間をもてない状況です。

訃報

生前ご活躍された先輩方には、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

39期 故金子 八郎 平成二十年三月
42期 故金子 太郎 平成十三年五月
44期 故堀内 茂男 平成二十年三月

宮下杯優勝者の声

男子優勝 二年 下形将央

伝統ある宮下杯で、OBの方々からうけつらるる中、緊張しつつも運よく決勝まで勝ち上がり、優勝できたことをうれしく思います。引退された三年生の竹内先輩、福澤先輩と試合をしたときは、今まで一緒に稽古をしてきたことを思い出して、最後なので全力でやらせていただきました。そして先輩の力のすごさを感じ、自分も更に稽古がんばっていかなくてはと思いました。



新チームになって、私は班長という重責を担うことになりました。古に励み、インターハイを目指します。ご指導し、支えてくださった先生方、OBの方々に感謝いたします。

女子優勝 二年 滝沢美保

今年の夏、上田高校剣道班女子は、県大会ベスト8でした。なので宮下杯は、三年生の先輩がたとできる最後の試合でした。私は一年と三ヶ月で個人的にチームに対してとても迷惑をかけ

つばなしでした。それでも、稽古では上下関係もなく、いつも支えてくれて、試合では、信頼し自分の剣道で戦うことができました。その感謝を込めて、試合をしました。また、今の自分がいることは、先生や先輩、チームのみんなのおかげだということを忘れないようにしたいです。

自分達は今、新人戦に向けて稽古に励んでいます。OBの方々から受け継いでいる、東信大会連覇、また、愛知で行なわれる選抜大会出場を目指しています。状況はとも厳しいですが、OBの先輩方の伝統を受け継ぎ、先輩方に恥じないよう、一人一人高い意識を持って絶対諦めません。これからも応援よろしくお願いします。

「現役生の声」

班長 福澤 敬 (三年)

上田高校剣道班の三年間の活動はとも早く過ぎていきました。自分達の代は男女合わせてもとても少ない人数で男子は二人だけだったので不安なことがたくさんありました。例えば、班長として後輩達をしっかりまとめることができるか、先輩達のようにたくさん的人数がいなかったの、いろいろな意見を聞くことができなかったことなどです。そういった状況の中でも、先輩達の作り守ってきた伝統を受け継いでいこうと、後輩達と切磋琢磨して厳しい稽古を乗り越えていきました。

神津先生と竹内先生には、たくさん稽古をつけていただきました。また、貴重なアドバイスがたくさんいただきました。神津先生からは「自分の持っているものをすべて出し切る」という竹内先生からは「稽古で出していることを試合でも出していくこと」というアドバイスが一番心に残っています。

編集後記

はじめに、旧顧問、故荒木豊治先生・故長谷川良一先生のご冥福を、心よりお祈り申し上げます。

役員改選により、「剣風」編集委員を76期仁木君から引き継ぐ事になった。新・会長の羽田先生(高校時代の監督である)から、剣道班の歴史を記録に残す事業であると指導されている。インターネットWEBの活用と活字媒体の発行により、剣道班の歴史を記録として残していくために、微力ながら尽力して参りたい。

(編集委員…佐藤、工藤武、神津、正村) 76期「佐」記す

「追伸」

OB会ホームページの中に「会員制掲示板」を開設してあります。不適切な自動書き込み防止のためIDとパスワードの制限をかけたが、

OB会ホームページ <http://www.sinsyu.or.jp/~kendou/>

利用率が非常に少ないため、試みにIDとPASSWORDを公開します。

左記を半角英数字で入力の上、ログインしてみてください。

多くの会員の皆様のご利用、お待ちしております。

ID: ueda パスワード: 1111

一月二日OB会のお知らせ

日時 一月二日

●14時半～OB対現役生対抗試合

●15時～稽古会 上田高校第二体育館

●17時半～懇親会の受付

●18時～懇親会 大門町「ささや」(会費5000円)

※幹事 田村淳樹(四期)

090-24620813

来年度のOB会は

6月26日(土)です。

●会費納入のお願い●

会費 (三千元)

およびご寄附の納入は、十二月末日までにお願ひ申し上げます。

○住所変更の方は幹事長までご連絡下さい。

72期 竹内茂直宅

〒389-0505 東御市和2789

もしくはOB会ホームページから管理入力メール

経由にて幹事長に取り次ぎます。

<http://www.sinsyu.or.jp/~kendou/>